

Tinggal

ロングライフで心地よい生活スタイルマガジン
[ティンガル]



特集 | Love LONG LIFE
高樹沙耶インタビュー

Love LONG LIFE

もっと気持ちいい暮らし

高樹沙耶さんの、
気持ちいい生き方

古い家ってなんなか素敵
NY、ストーリーとスタイルのある暮らし
休日の上質ナチュラル服

ごだわり住宅マテリアル

漆くい

あなたのお部屋の壁は、どんなもので覆われていますか？　張替えが簡単な壁紙が多いのでは？　でも、自然素材で壁を塗る、快適な空間をつくる方法があるとしたら……。100%天然の塗り壁材、漆くいのよさをご紹介します。

●文／藤木郁子 写真／桂野二朗



漆くいは仕上げの塗り方によってさまざまな表情を見せる。左上／コ子の跡がなるべくつかないように表面を滑らかにした仕上げ。右上／波形のような模様をつけた「ウエーブ系」。左下／くしで跡をつけたような「くし引き」。そして、右下／漆くいに「墨書き（墨を細かく刷んだもの）」を混ぜ込んでいる。



右上／透きい壁に表情をつけるためにいろいろなコテがある。埴活やつるる様様によては、絵画に用いる小さなコテを使うこともある。下／希望によっては、手などもつけて記念にすることもできる。



左上／透けい壁に表情をつけるためにいろいろなコテがある。埴活やつるる様様によては、絵画に用いる小さなコテを使うこともある。下／希望によっては、手などもつけて記念にすることもできる。

透けい壁に表情をつけるためにいろいろなコテがある。埴活やつるる様様によては、絵画に用いる小さなコテを使うこともある。下／希望によっては、手などもつけて記念にすることもできる。

透けい壁に表情をつけるためにいろいろなコテがある。埴活やつるる様様によては、絵画に用いる小さなコテを使うこともある。下／希望によっては、手などもつけて記念にすることもできる。

透けい壁に表情をつけるためにいろいろなコテがある。埴活やつるる様様によては、絵画に用いる小さなコテを使うこともある。下／希望によっては、手などもつけて記念にすることもできる。

透けい壁に表情をつけるためにいろいろなコテがある。埴活やつるる様様によては、絵画に用いる小さなコテを使うこともある。下／希望によっては、手などもつけて記念にすることもできる。

透けい壁に表情をつけるためにいろいろなコテがある。埴活やつるる様様によては、絵画に用いる小さなコテを使うこともある。下／希望によっては、手などもつけて記念にすることもできる。

漆くいを塗るまで



漆くいホタテ貝の貝殻を粉末にしたのが主な材料。もともとが多孔質の貝殻の性質を活かすために、少々泡めの粉のものを使っている。水を加えてエキサーで溶ぜる。このとき、同じく天然素材の顔料を溶ぜ込んで色をつける。左・黒は炭、赤は紅丹、黄色は黄鉄土がそれぞれ原料。分量は、お客様の好みを開き出ししながら、職人さんが技術を發揮する。溶ぜ合わせた材料を薄ら撒かせるために少し練り置きしてから、コテ舟に取ってコテで塗っていく。



今回の取材に協力していただいたのは、天然素材の住宅を提供しているSOKKENさん。今も設計士であり、現役の職人でもある、社長の河津さんがいろいろ説明してくれました。

切紙などに比べると、職人さんの手間を考えても予算がかかるところかな漆くいですが、一生もので、とは社長さんの言葉。もともとが粉のもので、しかも石灰質のもので、年月が経つと崩れてくれるんじゃないかなと思いつつ、完全に乾くとかなりの強度になるのだそう。

もうひとつ気なるのは、メンテナンスの面。ビニール素材の壁紙は、汚れを拭き取るのに抵抗はないのですが、漆くいなどは、拭き出来るのかどうか不安です。

これも、怪しい汚れなら拭ききりでも大丈夫ですよとのことで、こう汚してしまったときは、上に漆くいを塗っちゃったほうが早いそうです。紺子の纏かい漆くいは、主人でも簡単に扱えるので、セルフケアもできるようですね。

商業施設物だったホタテの貝殻を材料にして、化学的なものを一切使わない漆くいは、本当の意味でエコな素材なんだと思います。しかも、一生ものだとすれば、経済的でもあります。呼吸する壁など、愛着さんは嬉しいと思います。



粗めのハケでゆるやかなカーブを描きながら、波形を少しづつ重ねていくと、独特の様様になる。職業そうに見えて、そこには職人さんのセンスが光っている。さりげなく並べられた道具の多様さに、左官職人の仕事の奥深さを感じる。



もくもくと仕事をこなしていく、取材中の無理なお願いも聞いてくれたのは、左官職人の竹崎さん。暮張メッシュの壁も塗ったという、職歴23年のベテランです。

お父さんはも左官職人で、小さいころはお父さんの職業を「酒屋(サカヤ)」と誤解されて困ったそう。左官という職業がもっと広く知られるようになって欲しいのだそう。

職人さんというと、なんか古雅しそうで近寄りがたい気がしますが、お客様には何でも話して欲しい、と竹崎さんは言います。お客様の満足が自分の満足になります。

自分の仕事にちょっと興味を持つて欲しいと思っている竹崎さんは、見学に来たお客様には、気軽に後つてもらおうそうです。セルフメンテナンスのための指導も楽しくしてくれるというので、職人さんのイメージも大分変わります。

最近は、エコ素材というだけでなく、高級マンションの内装に採用されるなど、注目されてきた漆喰。たとえば、除湿機や消臭剤がいるないとすれば、長い目で見ると結構お得なのがもしれません。職人さんはいろいろ相談まで、オリジナルの壁が出来るのも魅力です。壁紙の上からも出来ることができるそうなので、リフォームのひとつとして考えてみたいですね。

Yさんご夫婦が暮28年の分譲公団住宅をリフォームしたのは今年。玄関、お風呂、トイレ、そしてリビングを変くしたいといふから。

本省は一枚板のテーブルを置きたかったという奥さんが、なかなか見つからず、イメージにぴったりな2枚の板を張り合わせたものになりました。リビングはこのテーブルを中心に、テーブルが一番見えるように設計されました。

漆くいには着色せず、地の白のまま、ほとんどコテの跡がない滑らかな表面に仕上げています。

が、ほんの少し柔軟さが入っています。

て、微妙な味わいを出しています。

年。玄関、お風呂、トイレ、そしてリビングを変くしたいといふから。

また、落ち着いた色の家具と、柄の床板が、真っ白な漆くい更によく合っています。南欧の田舎の家におりやましで、うるさい異国情緒を感じます。イタリア旅行から帰ってきたばかりの奥さんのお友だちが、また旅行に来たらよう、と思い

たそうです。

日中は日の光を受けて全体が明るいリビング。夜になって照明を点けると、天井から壁まで、わずかなコテの跡の凹凸の陰影が生まれ、ロマンチックな雰囲気をかもめ出すのださうです。



気持ちのいい漆くいの家

周辺に緑の多い公団住宅の一室が、高原の一軒家に。リフォームで見えたようになったYさんご夫婦宅は、本当に気持ちのいい空間でした。

天井まで塗られた漆くいが、南欧の住宅のような印象を与えていました。

上、リフォームのコンセプトはこの広いテーブルから始まった。左、奥さんの手による陶器。漆くいの白一壁に良く似合っている。右、漆くい壁にきれいに陰影を映し出す扉。下、キッチンとの間を締めると独立したリビングになる。



廊下と洗面所、トイレの壁と天井は、リビングよりちょっとと黄色味がかった色合い。奥さんの分量も少し多めにして素朴な感じになっています。

リビングでは、日常の多くのを過ごすので、多日の葉すさと色味はちょっと違う感じがします。でも、リビングを出た廊下の印象を覚えることで、日常にアセントが加わる、飽きのこない演出になっています。

取材に訪れてしばらくして気がついたのは、お家全体が木の匂いしかしないこと。リビングはキッチンとの間の引き戸が開け放たれています。何かしらキッチン回りのニオイがするものだと思いついたが、キッチンそのものから何のニオイもしませんでした。

奥さんは、「とにかく部屋の中の空気がいいです。湿気も少くなり、それに、静電気も起きないんですよ」と満足げ。満足の実力を見た気がします。

リフォーム前は特に嫌くいには関心がなかったYさんはですが、住み心地のよさにすっかり満足した様子です。

奥さん作の陶器の湯飲みでお茶を頂き、いろんなお話を伺つてい

るとい、あまりの心地よさに時を忘

れました。



上右／ドアを開け放つと廊下と台所、リビングがひと眺きになる。上左／廊下に一步進むと奥さんは手づくりのオブジェが、リビングの空間とは違った雪國乳。下左／トイレの様、歴史的なインテリア。右／トイレの壁から廊下までは墨書きの多い壁。寝室の天井だけは、床材と同じ柄。音が透れていくので静か。